

平成 28 (2016) 年度
札幌市立大学大学院看護学研究科 博士論文要旨

2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための集団教育プログラムの開発と検証

札幌市立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程
学籍番号 1375001 氏名 小田嶋 裕輝

I. 序論

近年、2 型糖尿病患者のセルフケア行動や心理的負担感に関連する要因の 1 つとして首尾一貫感(Sense of Coherence ; SOC)が着目されている。首尾一貫感とは全体的な物事への向き合い方のことであり、把握可能感、処理可能感、有意味感の 3 つの下位概念からなる。首尾一貫感の機能は、病気を持つ人の対処行動と共通性があると報告されている。よって、2 型糖尿病患者の首尾一貫感には、糖尿病の理解や予測、療養上の問題への対処、療養行動の意味を見出すという機能を有すると考えられる。また、2 型糖尿病患者の首尾一貫感とは糖尿病に伴う心理的負担感、自己管理行動、看護師の支援と関連するとの報告や、患者の首尾一貫感とは系統的な集団への介入により高まるとの報告がある。しかし、2 型糖尿病患者を対象に首尾一貫感の向上を目指した研究は行われていない。そこで、本研究は 2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高める集団教育プログラム（以下、SOC 集団教育プログラム）を開発し、その効果を検証することを目的とした。

II. 研究方法

研究 1 : SOC 集団教育プログラムの開発

文献検討と看護師への個別インタビューの実施により、首尾一貫感を高める支援方法をそれぞれ導きだした。次に両分析結果を統合し、2 型糖尿病患者を対象とした SOC 集団教育プログラムを開発した。本プログラムの実施者は糖尿病看護経験が 3 年以上ある看護師である。本プログラムの内容は、医師や看護師等で構成する専門職者会議による検討を経て確定した。

研究 2 : SOC 集団教育プログラムの検証

準無作為化比較試験による介入研究により、本プログラムの効果を検証した。対象は、総合病院の糖尿病教育入院の目的で入院した患者 40 名で介入群 21 名、対照群 19 名である。介入群には、首尾一貫感を高める集団教育を通常の教育入院の支援内容に付加して実施した。介入効果を検証するために、入院時と退院時に自記式質問紙調査を実施した。評価指標は、首尾一貫感尺度、糖尿病問題領域質問票 (Problem Area in Diabetes Survey ; PAID) である。解析は、各評価指標について介入群と対照群の群間比較と群内比較をし、統計学的有意差検定を行った。

Ⅲ. 結果

研究 1: 文献検討とインタビュー調査の結果を統合し、把握可能感を高める支援内容として患者教育の準備状態を確認すること、病気に至った生活を患者とともに振り返ること等を抽出した。処理可能感を高める支援内容として生活上の問題と改善点を一緒に見出すこと、実現可能な目標や方法を共有すること等を抽出した。有意味感を高める支援内容として生活と治療の両立を支えること、療養行動の意味を見いだせるように関わること等を抽出した。本結果を構造化し、SOC 集団教育プログラムを構築した。

研究 2: 群間比較では対照群と比較して介入群で首尾一貫感得点が有意に改善した。なお、首尾一貫感の下位概念別の尺度得点、PAID 得点に群間差は認められなかった。群内比較では介入群でのみ首尾一貫感得点、PAID 得点、および、首尾一貫感の下位概念の把握可能感得点と処理可能感得点が有意に改善した。本プログラムへの参加による参加者の認識の変化として【糖尿病への理解が深まった】、【今後の生活に見通しが持てた】、【生きることに前向きになった】、【病気を他者に理解してもらおうと思った】の 4 カテゴリーが抽出された。

Ⅳ. 考察

SOC 集団教育プログラムは、1 回 30 分計 4 回で構成し、先行研究に比して少ない介入回数と時間で首尾一貫感を改善する効果を確認できた。本プログラムは、通常の教育入院プログラムに付加して、2 型糖尿病の悪化を招いた過去から現在の生活を振り返り、今後の生活を見通すことができる内容とした。また、話し合いの場を設け、患者同士がお互いに影響し合う集団の力を活用する方法を用いた。これらにより、自身の生活を見直す機会になり、【今後の生活に見通しが持てた】と 2 型糖尿病との向き合い方への理解を深め、下位概念の把握可能感や処理可能感の改善につながったと考える。一方、有意味感に変化はみられなかった。有意味感を高める支援として患者自身の気持ちの表出を促す等を行ったが、支援内容として不十分だったと考える。また、本プログラムは患者の心理的負担感を改善し、【生きることに前向きになった】と 2 型糖尿病とともに生きる向き合い方の変化も示した。今後は、教育目標や教育内容に自己の療養行動の意味付けなど有意味感を高める内容を明確に掲げて支援内容を強化することや、通常の教育入院プログラムに本プログラムを取り入れて有用性を高めていくことが課題である。

Ⅴ. 結論

1. Antonovsky の理論や、看護師へのインタビュー調査結果と文献検討の統合結果を基に SOC 集団教育プログラムを開発した。
2. SOC 集団教育プログラムは群間比較で首尾一貫感を改善する効果や、群内比較で首尾一貫感とその下位概念の把握可能感と処理可能感、糖尿病による心理的負担感を改善する効果があることを示した。
3. 有意味感を高める支援内容を強化し、SOC 集団教育プログラムを通常の教育入院プログラムに取り入れて有用性を高めていくことが課題である。